

# 特集 埼玉に根を張る

～地域とともに豊かに暮らす(東秩父)～



東秩父村在住 Huckle Alex Peterさん(英国出身)、稻山 杏樹さん

埼玉に暮らす外国出身の中には、地域に根を張り、積極的に地域と関わり生活している方が多くいらっしゃいます。東秩父村にも地域に密着し、家族の求める理想の生活を実現しているご家族がいらっしゃいます。ご本人も地域の方も外国人という意識は薄く、地域と積極的に関わりとけみながら、生活されています。その暮らしや地域での活動、思いについて、アレックスさん、稻山さんご家族にお話を伺いました。

## 東秩父村に暮らすきっかけは?

(アレックスさん) 私達はインドでバックパッカーをしていましたときに出合った、その後ニュージーランドでワーキングホリデー制度を利用し、オーガニックファームと共に働いていました。その経験が今の暮らしの根幹になっていると感じています。ワーキングホリデー終了後、忘れもしない東日本大震災の直後、2011年3月15日に来日しました。

(稻山さん) 震災直後でまだまだ生活が安定しない中、私の実家のある春日部で新生活をスタートしました。春日部では、ニュージーランドでの生活とのギャップを感じ、人づきあいが少なく、周りに誰が住んでいるかわからない生活に違和感を抱えていました。

(アレックスさん) 来日してすぐは、インターナショナルスクールの幼稚園で英語講師として働きました。日本人は仕事がいつも忙しく、週末に余暇を楽しむ余裕もなく、寂しく感じていました。また、子育ての環境を考えたときに、自然豊かな場所でのびのびと育てたいと思いました。

(稻山さん) 二人の意見は一致していたので、地図を広げ、春日部から直線距離で近い山を目指し小川町へ引っ越しそうと考えました。そこから、休みの度に子供を抱き、夫婦で小川町に行き、家を探しました。なかなかちょうどよい物件に出会えず、少しずつ西に移動していき、ここ東秩父村へ足を踏み入れました。家探しで訪れるときの子供達が、見知らぬ私達に「こんにちは」とあいさつをしてくれ、そんな環境を気に入り、ここで暮らそうと決めました。その矢先、貸してもいいという古民家を紹介され、引っ越ししが決まりました。村のコミュニティが密であるため、私達が家を探しているという情報が広がり、この家の紹介に繋がりました。



古民家をリフォームする  
アレックスさん

## 地域に暮らし、支えられ…

(アレックスさん) ここに引っ越し、まず仕事を探しました。私が仕事を探していることはすぐに地域の情報網で広がりましたが、日本語がまだそこまで上手くなかったので、なかなか決まらず困っていました。そんな時、地元の鉄工所の社長が、「うちで働くのかないか」と声をかけてくれました。今は別のところに勤めていますが、今でも社長とは仲良く付き合い、猪や鹿の肉を分けてもらったりします。この社長の勧めで消防団にも入団しました。ここは山林が多いので、山火事が多く、ハイキングで迷子になった人の捜索もあったりと、活動の幅が広いのが特徴です。日々の整備や訓練に参加し、日頃の練習の成果を競う大会にも出場します。活動は忙しいですが、地元の人達と繋がりもでき、入っ

てよかったです。日本のおじさん達は知識や経験が豊富で、多くのことを教えてくれます。普通のおじさん達なのに、それぞれが様々な分野に精通しているので、話していくととてもおもしろいです。また、引っ越ししてすぐ、近所の方に隣組の加入について、「やることはたくさんあるし、若い人は入らない人も多い。どっちでもいいよ。」と聞かれました。私達は地域でできることはやりたいと思っていたので、隣組に加入しました。隣組の活動は、地域の草刈りから葬式の手伝いまで、多岐に渡ります。特に草刈りは範囲も広く、回数も多くて大変です。隣組メンバーの平均年齢は70代なので、チェンソーや草刈り機を扱える若い人はとても重宝されます。私は地域の方達の役に立ち、少しでも貢献できることにやりがいを感じています。

(稻山さん) 引越した家は私たちの理想の古民家で、大家さんには住んでくれるだけで有難い、好きなようにリフォームしていいと言われました。主人の父はイギリスで文化財に指定されている茅葺の家を自分で修繕しながら暮らしています。それを見て育った主人はリフォームが得意で、私達は思い描いた通りの家に暮らすことができました。しかし、去年、その家は火事になってしまいました。配線関係もかなり古かったので漏電ではないかという人もいましたが、原因はわかりません。その時、家財道具はなくしましたが、すぐ村営住宅に仮住まいできることになりました。その日のうちに、近所の方々が生活に必要なものを持ってきてくれ、すぐに普段通りに暮らすことができました。子供達の衣類もたくさん頂き、本当に助かりました。地域との関わりが心地よいここに暮らし、周りの方達に支えられ、私達も大好きなこの地域に恩返しできるようにと暮らしています。

## 地域の伝統芸能を継承する

(アレックスさん) 消防団と一緒に活動する神主さんに誘われ、坂本八幡大神社の「神代里神楽(かみしろとかぐら)」の練習を見に行きました。見学だけのつもりが、あれよあれよとその日のうちに、神楽への参加が決まりました。初めはできないと思っていたが、見学すると、もしかしたら少しはできるかもと思えました。参加して、もう4年になります。この神楽は村指定の無形民俗文化財に指定され、年に1度、秋の大祭時に神楽殿で奉納されます。その日は朝から夕方まで踊り、時間も長く大変ですが、500年の歴史があり、継承していく意義を感じています。神楽の面が怖いと言って、我が家の子供達は今まで見に来ることができませんでしたが、小学1年の長男は今年初めて私の神楽を見ることが出来ました。和太鼓を習っている長男と一緒に神楽を舞う日が今から楽しみです。



里神楽を舞うアレックスさん

## 私たちの夢

(稻山さん) 最近までに3組の家族が新たに村へ転入しました。家を探している人と空き家をマッチングする「空き家バンク」の制度が村にはあり、今後さらに村への移住も増えるのではないかと思います。

(アレックスさん) 先日、新たに古民家を購入し、来年の春の引っ越しを目指し、リフォーム中です。子供達も手伝い、庭に好きな果物の種を植え、楽しんでいます。私の工具類は火事で使えなくなりましたが、近所の方々が工具を、近所の水道屋さんはショベルカーも貸してくれます。ここに来てから、畠で野菜も作っています。今後は麦や蕎麦にも挑戦してみたいです。

私は今、中学校で英語を教えています。将来的には農業と家具作りの仕事をしたいと考えています。私達夫婦も子供達も人の集まる場所が好きなので、ゲストハウスを併設し、交流の場にできたらと思います。

(稻山さん) 周りの方には「日本人より日本人らしい」と言われる主人です。そんな主人と子供達とこの地でのびのびと暮らしていくならと思っています。



リフォーム中の古民家外観